

るのみならず、之が爲に姿勢の上や視力の上へも悪影響を與へて面白くないのである。幼稚園や小

学校の初年級では、使い易い即ち制御し易い軟い殊に色のある材料が最も適當して居るのである。

「幼児の今昔」に就ての所感

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園主事

安井哲

私は、現行法令の尋常小學第三學年からの針仕事でさへ尙ほ聊か早きに失するといふ感を常に有つて居るものである。故に幼稚園程度や小學の初年級に對しては細筋の使用は一層考へ物である。

殊に、長い時間に涉つての過用と來ては、益警戒を要するのである。其の結果必ずや兒童を神經質にしたり、早熟に傾かせたり、順當な發達を妨げたりせずには措かないのである。兒童從來の發達に對して、少からぬ妨害を與へ、回復し難い損害を被らしめる事になるのである。

これまで幼稚園から小學校へ入つて來た兒童の成績に就いては、種々な實驗の結果や統計上の結

論があり、中には、幼稚園教育の効果を疑う者さへあつた様である。私が以上述べ來つた問題は此點からも亦大に考慮を要する事柄ではあるまいか。

幼稚園で先生々と慕つて居る愛らしい幼兒を見る毎に、此温たかな美しくしい生活を何時まで記憶するであらうかとは、密かに起る疑問でありました。固より幼稚園の先生自身は、將來に於て幼兒から假令精神上でも、何等かの報酬を得たいと期待して居られはしますまいけれども、幼稚園關係者としての自分は、保姆の方々が如何なる面倒な事でも、如何なる汚ない事でも何とも思はず、眞に母親が吾子に對するやうな心情で親切に世話を

せらるゝのを見る時には、どうぞ幼児がいつまでも、せめては懐かしい先生の御名だけでも記憶して居てくれる様にと密かに祈るのでありました。

ところが先頃母校開校四十年記念式を擧ぐるに當つて、本園は「幼児の今昔」なる記念アルバムを作らんことを企て、昔の幼児、今の立派な紳士淑女の方々から、御寫眞の寄贈を請ひました。三四年も昔の方などは其御宿所さへも分らぬので、僅に其一部しか集りませんでしたけれども、兎に角之れに依つて幼なき昔を忍ぶ機會を與へ、且又是等の方々に對して直接何等の關係を有たなかつた吾々も、種々なる美しくしい感情を刺戟せられたといふことは、將來の幼児教育に益するところが少くないと信じます。

ある方は寫眞寄附の依頼狀を讀んで、急に幼稚園時代の生活が懐かしくなつたとて、昔の思ひ出を詳しく書いて送つて下さいました。(別頁參照)又ある方は宮中に奉仕せらるゝ御身の、丁度御大

典に際して殊に御多忙なるにも係はらず、わざわざ今昔の御寫眞を複寫して送つて下さいました。

殊に記念日の翌日學校全體を開放して、多くの方に參觀せしめました折には、是等寫眞の寄贈者の多くも亦久々にて昔の幼稚園を見に行かうといふので、打連れ立つて來られました。中には昔の幼児が今は互に結婚されて其御子様が今又本園に來て居られるといふので、先第一番に此處を訪問しましたと云はるゝやさしい方々もあり、中には昔の名簿を繰りひろげて、此れも幼な友達、彼れも亦、と懐かしげに話し合つて居らるゝ方々もありました。又毎日嬢様のお伴して幼稚園に通つた女中が、今は年も老いて嬢様の嫁がれた先に、矢張昔の忠義を繼げて居る者が、「今日は是非其私もお伴にお連れ遊ばして」と楽しんで來られたのに、丁度折良く其當時の先生も參觀に來合はされて、「オ、あなたが一所であつてこそ昔の思ひ出も一層深い」と云はるゝなど、他所の見る目も美く

しく思はず涙ぐまれました。かゝるやさしい方々の引き繼いで訪問に、偶々落ち合はれた昔の先生の誰れ彼れと圓き卓子を取り圍んで、昔語りにも時の移るも忘れてしまひ、來春にでもなつたならば懇親會でも催したいといふ希望を残して別れました。私は此美しい光景を目撃して、今の幼児の將來を種々に想像致しました。

今昔寫眞の對照は、私共に種々の感想を起こさせました。何れも同じやうに無邪氣な小さいお子様が、二十年を經、四十年を過ぐれば、かくも立派な紳士となり、學者となり、實業家となり、又美くしい奥様とならるゝものと、今更のやうに熟々感じられたのであります。幼ない時から次第次第に變り行く吾子の發達状態を見て居らるゝ母親には、恐くは其著しい差異を其程深く意識されぬかも知れません。併し幼稚園時代のみを知つて居る保姆が、二三十年の後に昔の幼兒を見たならば、丁度私のやうな感想を起こされるであらうと

思はれます。

それに就いても實際幼兒を世話されつゝある保姆方は、唯無邪氣に弱さうに見ゆる幼兒に、かくも驚くべき立派な將來が潜んで居るといふ事を、どれ程意識されて居りませうか、或は又自身が幼兒に對して抱いた想像が其實際とどれ程違つて居たかといふことを經驗されたでありませうか、といふやうな感想が起つて來ました。

古き歴史を有する吾幼稚園の四十年の昔を想像し、其當時此處に遊びし幼兒の現在を目撃しまして、實に無量の感に打たれたのであります。是等の方々今日あるは固より其良き素質が、良き家庭と、良き學校との教育に依つて美しく發達せられた結果で、僅か二三年間の短かい而も幼少の折の教育は、之れに對して最も僅少な關係を有して居るかも知れませんが、別頁の追想談にある通り、僅かに残つた一つか二つの印象が、幾分でも其將來の生活に影響を與へたことがあると

聞かれたならば、先生方もさだめて御満足でありませう。殊に是等の方々が現時有つて居らるゝ總ての位置や身分や特權を棄て、幼なき昔に立ち歸へらるゝのは、實に此場處であると思へば、吾等幼稚園の關係者は之れに對して實に無限の喜びを感じるのであります。此喜びこそ此處に働く大人の假令他の何物を缺いても、其仕事に對する無上の報酬であるのでありませう。

○昔の幼児より

左の書翰は今は市内有名の某教育家より安井幼稚園主事へ送られた手紙の一節であります。此の書翰の主は折柄眼疾に惱んで臥床して居られました。昔なつかしさに禁ぜずわざ／＼夫人に口授されたといふこととす。昔を忍ぶ心のうるはしさと床しさが筆の上にあふれて居ます。(安井氏

「幼児の今昔に就ての所感」参照)

お手紙を拜見いたして非常になつかしく感ぜられましたからその頃のうる覚えを少々申上げてお笑ひに供したいと存じます

私の入園したのはたしか明治十四年であつたと思ひます亡父

が本校へ奉職いたす事になつたので母と二人の姉と共に上京いたし二人の姉は小學部に(其頃下等と)か申した様に記憶して有りませう。私は幼稚園にはいりませんでした。しか門は今の處で右手に平家の教室が東西に長く建つて居た様に覚えて居ります。門の左方には大きな銀杏の樹があつて教室の南には大きな藤棚が御座いまして其下で毎日あすんだもので御座います。又其藤棚の南には池が御座いました。

私の在園中の幹事は始めが小西信八先生で次が岡五郎先生であつたと記憶します。私は豆細工の時に豆を食べてお目玉をいたゞきたる事も覚えて居ります。又大きくなつたら何になると問はれて風屋になるといふて笑はれた事も覚えて居ります。其頃から風を揚げる事が大すきで今以て鎌倉などへ子供を連れてまゐります。と終日風を揚げて遊ぶ事が御座います。がその都度幼時を思ひ起してをなしくなるので御座います。小西先生におほめにあづかりたる事を唯一つ記憶して居ります。それはある日非常の大雪にて約二尺もつもつた事が御座いました。其時私は父に紐で着負はれて幼稚園へまゐりましたがその日は僅か四五人しか出席いたさなかつたので感心だとはめられたのです。その時は子供心にもつく／＼うれしく感じましたのを今におき忘れませんで私は自分の子供もいかなる大雨大雪にも決して學校を缺席いたさせず御座いませぬ。